

RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



鼻水



せき



発熱

かぜのような症状が数日続き
多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は
細気管支炎、肺炎などを起こします

生後6カ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・
神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには
重症化の可能性が高まります。

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、
あわてずに様子を見て、かかりつけ医に
ご相談ください。**呼吸が苦しそう、食事
や水分摂取ができない時は医療機関
への受診**をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、
「**こどもの救急**」などのWebサイトを参照
したり、**#8000(こども医療電話相談)**に
ご相談ください。



こどもの救急

流行時期

初夏ごろから
継続的に増加となり
夏にピークになると
みられています

感染経路

飛まつ

接触

2歳までに **ほぼ全員が**
少なくとも **一度は感染**します

予防

水と石けんでの
手洗い



手やおもちゃなどの
アルコール消毒

症状がある時は
可能な範囲で
マスク着用



こどもを感染症から守るために、家族や周囲の
おとなも しっかりと予防しましょう

2026年度から、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が、
予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。RSウイルスワク
チンを妊娠中に接種することで、乳幼児の肺炎・細気管支炎の主要
な原因である、RSウイルスの感染を防ぐことができます。

詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると
重症化することがありますので注意してください。

